

東通原子力発電所につレッシュな仲間が加わりました

東通原子力発電所では、4月に15名の新しい仲間が加わり、2ヶ月が経過しました。当発電所の一員となった新入社員を紹介いたします。

東北電力では、平成24年度の新入社員として、320名を採用し、うち15名が東通原子力発電所に配属となりました。

当発電所へ仲間入りして2ヶ月が経過しましたが、現在は、現場機器研修など、発電所の業務に必要なさまざまな教育・訓練を受け、電力社員としての第一歩を踏み出しております。

1日も早く仕事を覚え、発電所の安全を支える者として独り立ちできるよう、頑張っています！



現場機器研修の様子



新入社員の抱負



発電管理課
三上 敦史(青森市出身)

毎日の研修が難しくつらい時もありますが、早く原子力発電所の現場を理解し、きちんと仕事をこなせるようがんばります。



発電管理課
齋藤 涼(十和田市出身)

優しい先輩が多く、職場の雰囲気も明るく仕事をしやすい環境と感じました。1年の研修期間で、色々な知識を吸収し業務に活かしていきます。



発電管理課
山本 翔平(盛岡市出身)

安全性をより一層向上させようという意識が所員全員から感じられました。安全・安定した運転を行えるよう、知識と経験を身に付けます。

教育担当者より一言



発電管理課課長
三浦 和彦

将来の原子力安全を担う社員に

発電所が一体となり、将来の原子力安全を担う人材を育てていきます。設備に関する知識教育、機器の運転操作や巡視点検等の現場技術の習得、さらに関係法令や各種規定にいたるまで幅広い教育訓練を行っています。

基礎知識や技能をしっかりと身につけ、1日も早く戦力となるよう頑張ります！
皆さまの温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

東通村診療所と放射性物質による汚染を伴う

傷病者の診療に関する覚書を締結しました

東通原子力発電所は、平成24年5月18日、東通村診療所(所長：川原田 恒 氏)と発電所構内で放射性物質による汚染を伴う傷病者が発生した場合の診療に関する覚書を締結しました。平成22年にはおつ総合病院、青森県立中央病院と覚書を締結しており、当発電所としては3例目となります。

覚書の締結により、より円滑かつ迅速な救急医療措置を行うことを目的に「通報連絡」、「資器材の配備」、「教育・訓練の実施等」について明確化され、より実効性のある体制が整いました。



締結式の様子



東通村診療所



東通村診療所
川原田 所長

これまでも継続的に勉強会や合同訓練を実施し、万一の場合に備えてきましたが、今回の覚書締結を機に、より一層の救急医療措置を行う体制を整えていく所存です。また、地域医療研修の一環として研修医への被ばく医療教育を推進したいと考えておりますので、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

放射線に関する豆知識

「放射線」の基礎知識について、シリーズでご紹介してまいります。今回は「食物と放射線について」です。

食物からも放射性物質を取り込んでいます

私たちは誰でも体内に放射性物質を取り込んでいます。代表的な放射性物質はカリウム40と炭素14です。

もっとも多いカリウム40は、私たちが生きるために必要なカリウムの一つで、いろいろな食物に含まれています。

なお、体内に取り込んだ放射性物質は時間とともにだんだん減っていくとともに、汗や便、尿などの排せつにより体外に出されるため、体内にたまり続けることはありません。

●食物中のカリウム40の放射能 (日本)



●体内の放射性物質の量

